発掘された新橋停車場

平成3～13年(1991～2001)まで、ビルが建ち並ぶ前の汐留地区で発掘調査が行われました。発掘調査では駅舎とプラットホームの跡が見つかったり、当時のお客さんが使った乗車券や汽車土瓶、駅員さんが持っていた改札バサミなどが出土しました。

汽車土瓶

（東京都教育委員会蔵）

乗車券「新橋ヨリ横濱迄」

（東京都教育委員会蔵）

改札バサミ

（東京都教育委員会蔵）

汽車の中の様子

復元された新橋停車場

中には、展示室もあるので、建物と合わせて見学してみよう。

港郷土資料館では、平成23年4月20日までコーナー展「考古資料に見る近代」で、出土した汽車土瓶や改札バサミなどを展示します。見に来てね。

港郷土資料館利用のご案内

開館時間　午前9時～午後5時（さわれる展示室は火・水・金・土の午後0時30分～4時30分）

休館日　日曜日・祝日・毎月第3木曜日・年末年始・特別整理期間

※7/21～8/31の日曜日・祝日は開館します。

交通　JR「田町」駅下車徒歩5分

都営地下鉄三田線または浅草線「三田」駅下車（A3出口）徒歩2分

都営バス「田町駅前」停留所下車徒歩2分

港区コミュニティバス（ちぃばす）「田町駅前」停留所下車徒歩2分

「田町駅西口」停留所下車徒歩3分

港区立 港郷土資料館へ行ってみよう！　第8号　　平成23（2011）年3月11日発行

編集・発行　港区立港郷土資料館　〒108-0014 東京都港区芝5-28-4　☎03（3452）4966

http://www.lib.city.minato.tokyo.jp/muse/

郷土資料館へ行ってみようバックナンバーは、ホームページでご覧いただけます。

イラスト：横山真弥　デザイン：annes　印刷：（株）文洋社

港区は、環境に関する国際規格ISO14001の認証を取得しました。
港区は、みどりの保全とごみの減量に努めています。
この印刷物は、古紙を利用した再生紙を使用しています。

刊行物発行番号 22155－7541

港区立

港郷土資料館へ行ってみよう！

第8号

鉄道のはじまり ～新橋停車場～

港郷土資料館

新橋は鉄道発祥の地！

1872年（明治5）、日本で初めての鉄道が、新橋・横浜間に開通します。当時の横浜は、外国からの大型船がとまる国際的な商業都市で、その横浜と政治の中心であった東京を結ぶために線路が敷かれました。

開業前の新橋停車場

どれくらい時間がかかるの？乗車料は？

新橋・横浜間は全長29kmで、片道53分程かかりました。汽車は1日7往復し、途中、品川・川崎・鶴見・神奈川に停車しました。運賃は、座る席によって3等級に分かれ、新橋・横浜間で一番格の高い「上等」は1円12銭5厘、「中等」は75銭、「下等」は37銭5厘でした。当時のお米1.5kgが4銭だったことと比べると、とても高額だったことがわかります。

新橋停車場の駅舎はどんな建物？

横浜の停車場には、新橋とほとんど同じ建物を建てました。

新橋停車場はアメリカ人R.P.ブリジェンスによって設計された洋風の建物で、外側は石造りでした。当時、開国したばかりの日本は、外国に追いつくためにさまざまな洋風の建物を建てていました。新橋停車場は、大正12年（1923）の関東大震災でくずれて取り壊されましたが、平成15年（2003）、同じ場所に同じ外観で復元されています。

明治30年代の新橋停車場内部の様子

新撰東京名所図会

明治時代の多くの日本人は、和服を着ています。よく見ると、外国人も描かれて、国際色豊かな絵になっているわね。

当時の新橋停車場は、現在の新橋駅と場所が少し違います。終点の横浜停車場は、現在の桜木町駅です。

新橋停車場
現在、復元された建物があるところです。

現在の地図と比べてみよう。明治時代は海が埋め立てられていなかったんだね。

海の中に描かれている線が線路です。

実は、新橋停車場が開業するより少し前に品川停車場が仮の開業をし、品川から横浜までをノンストップで運行していたんだよ。

地図：実測東京全図　明治11年　内務省地理局

明治時代の新橋の様子

東京土産銅版密図新橋停車場之全景

明治30年（1897）の新橋停車場周辺の銅版画です。道路を馬車鉄道が走っていたり、駅舎の目の前の堀に「新橋」がかかっていることがわかります。この堀は、1960年頃に埋め立てられました。

海の上を走る鉄道

現在の田町駅と品川駅の間は、海を埋め立てた土手の上を汽車が走っていました。今まで海だった場所に線路が敷かれたので、当時の人々は、「海の中を走る鉄道」と言っていたようです。

品川停車場から新橋停車場へ向う汽車

歌川芳年「高縄鉄道之図」

鉄道の開業前に描かれた錦絵。海の上を走る想像上の汽車がカラフルです。